

タンザニアの農村部における 余剰労働についての考察

日本語専攻 4年
8608021 樋口 佳苗

Introduction

- ▶ 定義—余剰労働—
 - 一部の労働者を農業部門から他の部門へ移動させたときに、農産物の総生産量が減少しないような状況がありうるとしたら、その移動させた労働力は「余剰労働」である。
 - この余剰労働力を他の部門に振り分けることによって、GNPを増加させ、国民の1人当たりの所得を高めることができる。
- ▶ 過剰労働、過剰就業、偽装失業、などあるが、ほぼ同意。

Model & Method

- ▶ 余剰労働の求め方
 - 直接的方法
 - ・ 労働生産型アプローチ
 - ・ 稼働率アプローチ
 - 間接的方法
 - ・ 最適人口アプローチ
 - ・ ルイス転換点
 - ・ 標準農業就業人口率

Model & Method

- ▶ 標準農業就業人口率
$$ALFR_i = \alpha 0 + \alpha 1 \times (GDPP_i) + \alpha 2 \times AGDPR_i$$

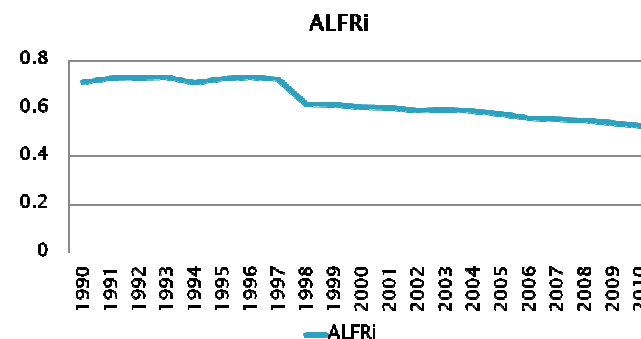
$ALFR_i$: 標準農業就業人口率
 $GDPP_i$: 1人当たりGDP
 $AGDPR_i$: 農業部門のGDP(GVA)の割合

Data

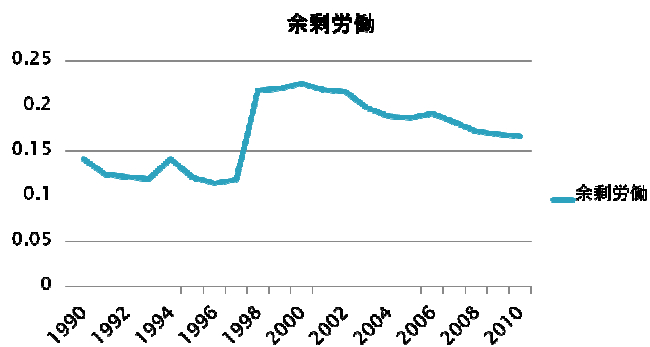
▶ 分析に必要なデータ

- 一人当たりGDP
- 農業部門のGDPの全体における割合
- 実際の農業就業人口の総労働者における割合
(World Development Indicators 2011より)

Analysis



Analysis



Concluding Remarks

- ▶ タンザニアには1990～2010年までの間、余剰労働が存在していたことが確認できた。
- ▶ 2000年を境に余剰労働の割合は減少している。→それに連れ、一人当たりGDPも増加。
- ▶ 余剰労働を削減することは国家の貧困削減にとって効果的である。